



松江保健生協 2017 年度のまとめ（案）

（はじめに）

日本国憲法が施行され 70 年が経過しました。

今、憲法が重大な岐路に立たされています。

自衛隊を憲法に書き加え、「戦争する国づくり」が「社会保障改悪」と一体となってすすめられています。

一方で、生活保護基準の縮小、「格差と貧困」問題の広がりなど、経済問題からくる生きにくさは、私たちのすぐ身近で目にする状況となっています。

松江保健生協は、健康づくりとつながりづくりを大切にした取り組みで、地域のネットワークづくりと「あったかまちづくりビジョン」の具体化をすすめました。

1、くらし・いのちを支えるネットワークづくりに取り組みました。

①「3 つのつくろうチャレンジ」（つながりマップ、支部、居場所）を通じて、住み慣れた町で安心して暮らし続けられるネットワークづくりに取り組みました。

支部数は 45 支部となり、サロン・居場所づくりでは 13 ヶ所で開催され、延べ 1,032 人が参加されるなど、地域の居場所づくりが広がりました。

②7 月から「無料低額診療事業」を生協病院、ふれあい診療所、歯科クリニックで開始し、これまでに 19 人の皆さんの利用につながりました。

事業を支える基金として、10 月に「おたがいさま支えあい基金」の創設を行いました。

「おたがいさま支えあい基金」は定期協力者 85 人、基金額 23 万 6 千円となっています。

③高齢者の見守り活動について自治体懇談を行い、「松江市高齢者見守りネットワーク」に加入しました。最も構成員の多い協定締結事業者となりました。

他の自治体との「見守り協定」に向けた取り組みはできませんでした。

④「なないろ食堂」、「おれんじカフェなのはな」（認知症患者・ご家族の方対象のカフェ）の定例開催を行いました。

社会福祉協議会、地域つながりセンターなどと共同で、「なないろ食堂」の開催を続けました。夏休み中には毎週開かれました。

⑤「9 条改憲 No. 憲法を生かす全国統一署名」（3000 万人署名）に取り組みました。

署名協力者 2,444 人、署名数 6,944 筆の到達となりました。（5 月 17 日現在）

生協、生協労組、まちづくり委員会などと共同実行委員会を作りすすめました。

2、健康づくり、楽しい活動を通じて、役立つ生協をアピールしました。

①医療福祉生協のブランド「すこしお」の普及をすすめました。

すこしおサポーター養成講座を開催し、35人のサポーター養成を行いました。

「すこしおモニター」、「減塩教室」、「サポーター認定講習会」などに取り組みました。

②「健康チャレンジ」は7,946人の参加。「仲間づくり」を重視し、顔の見える関係の中で「仲間でチャレンジ」に取り組みました。

「仲間でチャレンジ」は400グループの登録目標に対し、274グループが登録、1,164人の参加。この取り組みで新しく16班が誕生し、休眠班10班が再開しました。

「キッズチャレンジ」は学校の恒例行事として定着しつつあり、小学校では保健指導の教材として活用されるなど、新たな経験も生まれました。

“健チャレ”を通じ、健康づくりとつながりづくりを一体的にすすめました。

③フレイル（虚弱）予防、サルコペニア（筋力減少）予防に取り組みました。

体組成計インナーキャン（筋肉量、体脂肪率、体年齢、水分量など）や骨密度測定器を活用した班会が取り組まれました。（281件）

幸町デイサービスでは、県営幸町住宅集会所を会場に、毎月「介護予防教室」が開催され、地域や県営住宅入居の高齢者の皆さんの介護予防、つどいの場となっています。

④各支部、ブロックでの「おでかけ企画」や「グラウンドゴルフ」をはじめ、組合の要望に基づいた、多彩で楽しい取り組みを行いました。

「おでかけ企画」は支部、ブロックの恒例行事として定着し、強化月間中には延べ809人が参加するなど、組合員同士の結びつきと新たな組合員増やしにもつながりました。

「グラウンドゴルフ」大会は12回を数え、実行委員会形式による運営で、市内で開催される大会としては有数の大会となっています。

3、生協の組織・経営基盤の前進を作り出しました。

①組合員増やし1,800人、出資金2億3千万円を目標に取り組みをすすめ、組合員増やし1,112人、出資金増やし1億9,695万円、出資金総額では15億円となりました。

②患者・利用者計画の達成を軸とした剰余確保、経営改善に取り組みました。

経常剰余は2,326万円、当期剰余（税引後）は1,435万円となりました。

剰余計画からは大きく下回っており、引き続き経営改善に取り組みます。

③職員の確保・育成、定着のため、「一般職正職員制度」、「生協で働く人への応援給付金」確保困難職に対する新たな「奨学金返済支援制度」などを創設しました。

老健虹は「介護福祉士実務者研修実施施設」となり、はじめて6人修了者を出しました。今後は地域に開かれた実施施設として、介護福祉士養成と介護の質向上を目指します。